

【 7 】	
氏名	金 澤 右
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 609 号
学位授与の日付	昭和61年3月31日
学位授与の要件	医学研究科社会医学系衛生学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	集団検診より見た腹部超音波検査の評価 —— びまん性肝疾患と胆石について ——
論 文 審 査 委 員	教授 長島秀夫 教授 緒方正名 教授 木村郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腹部超音波集団検診を中高年齢者 432 名に実施し、びまん性肝疾患と胆石のスクリーニングの評価を血液生化学検査、問診と比較することにより試みた。びまん性肝疾患の超音波診断は血液生化学検査、問診と相関性を示したが、一方、超音波検査でびまん性肝疾患と診断されても血液生化学的には異常を認めない症例が存在し、それらは問診により肝疾患既往歴を有する確率が高いことが示された。超音波検査は非活動期の慢性肝炎の形態学的変化を把握したものと推測され、肝癌予防として high risk group のびまん性肝疾患を一次スクリーニングする際、血液生化学検査と共に超音波検査の有用性を認めた。

超音波検査で胆石と診断された症例は、血液生化学検査、問診で異常を示す傾向はないことから、スクリーニングされた胆石のほとんどは無症候胆石であり、胆石スクリーニングに際しては超音波検査を一次スクリーニングとして採用すべきと判断した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は腹部超音波集団検診を中高年齢者 432 名に実施し、とくにびまん性肝疾患（肝硬変、脂肪肝）と胆石のスクリーニングで超音波検査の有用性を明らかにしたもので価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。